



# 2024 すず 鈴コミ海まつり すずか うみ ～鈴鹿の海をみんなで大切にしよう～



## 事業報告書

イベントの実施  
レポートです。



鈴コミまつり実行委員会

# 2024 鈴鹿三海まつり

～鈴鹿の海をみんなで大切にしよう～

2024年7月27日(土)・28日(日)  
の2日間、鈴鹿市住吉町の鈴鹿コミュニティにて開催しました。会場では様々な海に関するイベントが盛りだくさんでした。その一部をご紹介します。



みえだいがく やまとこうすけせんせい  
三重大学の山本康介先生による  
海の生きもの紹介



ほんもの  
ウミガメネットワーク三重のブースでは本物  
のこうらを背負う体験



すずかこうこう しせん かがくぶ  
鈴鹿高校・自然科学部の  
鈴鹿川のいきもの展示や紹介



さかな  
魚と子どものネットワーク  
いきもの展示と紹介



しらつか はま あい かい  
白塚の浜を愛する会はマイクロプラス  
チックでのアクセサリー作り体験



よかいちだいがく ちば さとしせんせい  
四日市大学の千葉賢先生による  
三重の海についての講演



すずか きょぎょう りょうし くろだたつき  
鈴鹿漁協の漁師・黒田樹さんの  
おさかなクイズ大会



ぎょぎょうきょうどうくみあい  
鈴鹿漁業協同組合による  
地元産あさりのつかみ取り



たち か くうそう  
子ども達が描いた空想の  
おさかなの絵の展示



ウミガメネットワーク三重による  
ウミガメの紙芝居



らくごか りゅうせんてい  
落語家・柳泉亭くすりさん  
海にまつわる創作落語



地元のダンスチームによる  
ダンスパフォーマンス

他にも、自衛隊の制服体験ブースや第一楽器の先生によるウクレレ&ギターコンサート、女子ハンドボールチーム「三重バイオレットアイリス」のスポーツ教室、「吉田さんちの大道芸」なども開催しました。

「コロナで落ち込んだ地元を元気に!」「子ども達に笑顔を!」をキャッチコピーとして、2022年に鈴コミまつりはスタートしました。そして2024年には「子ども達に将来も鈴鹿で暮らしてもらいたい」という想いを込めて、鈴鹿の自然環境保護の観点から「海」をテーマにした「鈴コミ海まつり」として開催。7月末はとても暑い盛りでしたが多くの方にご来場いただき、みんなで海について考えるとても良いきっかけとなりました。



今回、イベントを通じて皆さんに海についてアンケートをお願いしました。鈴鹿に住んでいる方がどれくらい海のことを知っているのか、海の課題について取り組んでいるのかなどを調査し、またイベントに参加してどのように意識が変わったのかをまとめました。

## 「鈴コミ海まつり 2024」に参加してみて

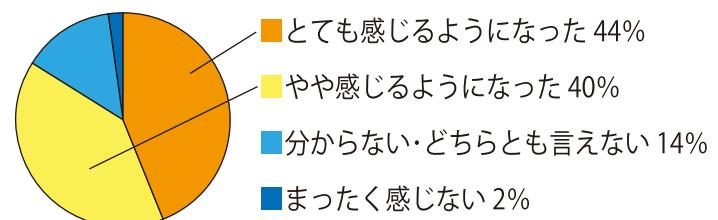
イベント中のアンケートによると普段の生活において、海についてあまり意識しなかったけど、イベントを通じていろいろなことを知ることができて良かったという方が多くいらっしゃいました。



### 参加された方からいただいた感想

- 実際にカニやヤドカリに触ることができたのが良かった
- 学生さんがていねいに詳しく教えてくれた
- プラスチックでの小物づくりが楽しかった
- ウミガメの本物のこうらを背負えたりして、普段できない体験ができた
- いろいろ体験することができて楽しかった
- ウミガメが三重にも来ているのを知っておどろいた
- 高校の生徒さんがやさしく教えてくれた
- 子どもがとても楽しそうだった
- 地元のさかなを学ぶことができた
- さかなのクイズが難しかった

### 地元の海により親しみを感じるようになった



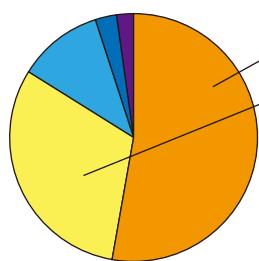
### ご参加の満足度は?



# 地元の海を汚さないために

今回のイベントでは、地元の海を守るための活動をされている団体の方々による展示や講演を行いました。ご来場のみなさんからは参加してみて新たな「気づき」があったという意見をたくさん頂きました。また地元の海を守るために一人一人がちょっとからでも始めるきっかけになったという方も多くいらっしゃいました。

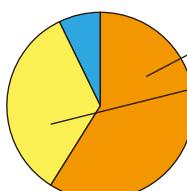
## マイボトルを持ち歩き ペットボトルはなるべく買わない



- とてもそうしよう思う 53%
- ややそうしようと思う 31%
- 分からない・どちらとも言えない 11%
- あまり思わない 3%
- まったくそうしようと思わない 2%

イベント後にマイボトルを持ち歩くようになった方 = 40%

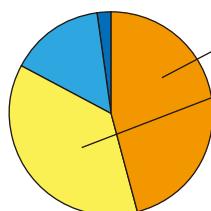
## 家からの排水を汚さないようにする



- とてもそうしよう思う 59%
- ややそうしようと思う 34%
- 分からない・あまり思わない 7%

イベント後に排水を意識するようになった方 = 14%

## 魚を買うときは地元の魚を選ぶ



- 選ぼうと思う 46%
- やや選ぼうと思う 37%
- 分からない・どちらとも言えない 15%
- あまり選ぼうとは思わない 2%

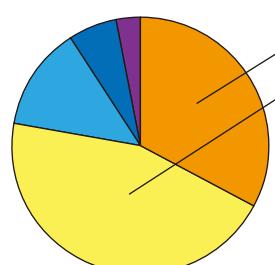
イベント後に地元の魚を選ぶようになった方 = 20%

## 地元の魚を選ぶとなぜ良い?

- 新鮮でおいしい
- 運ぶ距離が短いから、トラックの出る二酸化炭素が少ない
- 地元の漁業を支えることにつながる

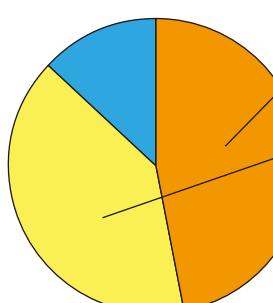


## プラスチック製品をあまり買わないようにしようと思う



- とてもそうしよう思う 33%
- ややそうしようと思う 45%
- 分からない 13%
- あまり思わない 6%
- 全く思わない 3%

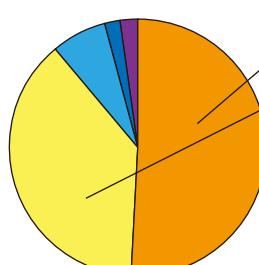
## イベントに参加して3ヶ月後のアンケートでは



- イベント後になるべく買わなくなった 47%
- もともと買っていない 40%
- 意識していない 13%

約半数の方が意識に変化

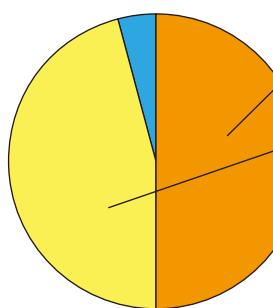
## プラスチックゴミを減らすために家庭でできることを考えようと思う



- とてもそうしよう思う 51%
- ややそうしようと思う 38%
- 分からない 7%
- あまり思わない 2%
- 全く思わない 2%



## イベントに参加して3ヶ月後のアンケートでは



- イベント後に考えるようになった 50%
- もともと考えている 46%
- 考えていない 4%

こちらも約半数の方の意識に変化がありました



てんじ ごうえん せいぶつ しょうかい あんぜん  
展示や講演では地元の海や川の生物の紹介や海を安全  
ふ ほうほう しょうかい いせわん  
に楽しく触れあう方法などを紹介しながら、伊勢湾における  
マイクロプラスチックをはじめとする海洋ゴミの問題、  
ぎょかくりょう げんしょう せんもんか  
漁獲量の減少などを専門家の方に紹介いただきました。



## いただいたご感想

- 海についてかんがえさせられるイベントだと思う
- 子どもが海について興味をもったのが良かった
- 地元の海の現状を知ることができた
- 環境保護の大切さをあらためて感じた



## イベントを通じての気持ちの変化

きょういく ぶんか たいせつ  
海は日本人の教育や文化にとって大切だと思う

とても思うようになった=55% やや思うようになった=34%

にほんじん しょく そんざい  
海は日本人の食にとって大切な存在だと思う

とても思うようになった=78% やや思うようになった=16%

まも かんが  
地元の海を守るためにどうしたら良いのか考えようと思う

とても思うようになった=53% やや思うようになった=35%

はんすう  
半数以上の方にイベントに参加して海の大切さを感じいただきました。

## 鈴鹿の海はどんな状況なの?

いせわん かわ はこ ほうふ えいよう ゆた ぎょじょう さっこん さまざま もんだい  
伊勢湾は河から運ばれた豊富な栄養により豊かな漁場でしたが、昨今は様々な問題により漁獲量は減少しています。

### 三重県の漁獲量

1984年（昭和59年）27.6万トン

▼ 約6割減!

2021年（令和3年）10.7万トン

ぜんこく ばんめ  
ちなみに三重県は全国6番目の漁獲量です。

りょうし  
漁師の数も  
はんぶんいか  
半分以下に！



### その理由は？

らんかく きこうへんどう  
乱獲、気候変動、海のゴミ問題／マイクロプラスチックなど、  
さがん こうじ  
護岸工事などにより陸の養分が海に流れにくくなつたこと、  
もば へ  
海の藻場が減つたことなど、いろいろ言われています。

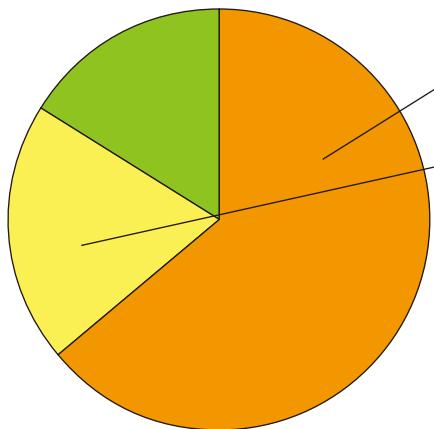
どうして魚が捕れなくなつてきているのか、調べたり考えたりしてみましょう。

### もば 藻場って？

みずくさ かいそう お しげ  
水草や海藻が生い茂るところ。魚の赤ちゃん  
そだ ばしょ  
が育つ大切な場所です。



## 【行動に変化があった方に聞きました】イベントに参加して意識が変わった理由は？



もっと多かったのは活動している人・団体がいることを「知った」ということでした。普段の生活ではあまり意識しなかった海の問題について「知る」ことで、ほんのちょっとしたことでも、環境のためならやってみようという方が増えたということです。「知る」事ってとても大事ですね。



## 行動に変化があった方のご意見・感想

- 学生の子たちがとても環境について話しているのを聞いて、大人がちゃんと行動しなきゃと思ったから。
- いろいろな団体が熱心に活動していることを知って、ちょっとでも環境のために貢献しようと思ったから。
- プラスチックごみが回りまわって自分たちが食べることにつながるとは思ってなかった。
- 三重もウミガメがいるのを初めて知ったが、海のゴミが原因でウミガメが死んでいると知って、ウミガメを守りたい気持ちになった。
- ゴミのポイ捨てはしていないから大丈夫だと思っていたが、人工芝からマイクロプラスチックが海にながれいることなど色々な原因で海を汚していることを学ぶことができた。
- 地元の海がこんなひどい状況で、こんなにも魚がとれなくなっていることを知った。
- これまであまりイベントで学ぶことがなかったので、いろいろなことを知ることができたのが良かった。
- 実際に漁業をしている方の話を聞くことができて良かった。普段、あまり触れあうことがないので。
- テレビ番組ではなかなか教えてくれない、環境のことを学ぶことができる良いイベントだと思った。

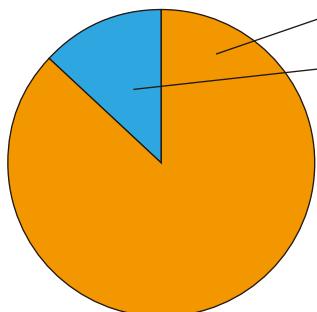
## 【行動に変化がなかった方に聞きました】イベントに参加しても変化しなかった理由は？

- 自分たちだけが考えても変わらないと思うから
- 家族と話をしないから
- 時間がない
- 面倒くさい
- 問題解決に繋がらないと思う
- 子供の関心が高くないし、押し付けると嫌がるから

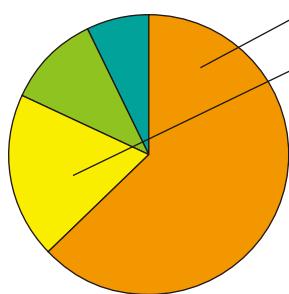


# たの 地元の海を楽しもう!

## イベント後に海に行った



## 海に行った目的は?



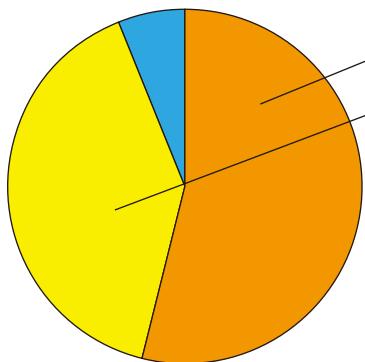
その他には「ウミガメロードづくりに  
行った」という方もいらっしゃいます。

## ちゅうい 注意

あそ  
い  
おとな  
いつしょ  
海に遊びに行くときには、かならず大人と一緒に行きましょう。

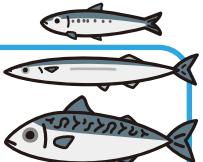
子どもたちだけや、ひとりだけで海に行ってはいけません。

## 地元の魚の種類をいくつ言えますか?



## なんしゅるい 地元の魚は何種類ある?

かい  
しゅるいいじょう  
三重県でとれる魚や貝、カニ、エビなどは200種類以上あると  
おとな  
いつしょ  
言われています。魚にも「旬」があり、  
しうん  
季節によってよくとれるもの、おいしい  
しうん  
ものがります。いつどんな魚がとれる  
しうん  
のか、調べてみましょう。



みらい  
鈴鹿の豊かな海を未来の子ども達のために守るには、みんなが海の事を知り、海の大切さ  
たち  
こうどう  
を感じ、一人一人が少しのことでも行動することが必要です。イベントに参加いただいた方、  
参加できなかった方も地元の海をもっと学び、感じていただき、家族で地元の未来について  
きかい  
はな  
あ  
考える機会をつくり、話し合ってみましょう。



# 鈴コミ海まつり開催主旨

鈴鹿市は鈴鹿川によって形成された扇状地にあり、  
山からの豊富な栄養によって育まれた豊かな海の資源がありました。  
しかし昨今の乱獲やマイクロプラスチックなどの海洋汚染、  
地球温暖化など様々な影響によって漁獲量も減っています。

鈴鹿の豊かな海の自然を未来に残すためにも、  
子ども達に「海が好き!海を大切にしたい」という気持ちを  
もってもらいたいから、海のことを考える「きっかけ作り」として、  
このイベントを実施しました。ぜひご家族で海について  
話をしたり、環境保護のためにできることを考え、  
できることから実践してみてください。



## イベントにご参加・ご出演頂いた人・団体

※順不同

三重大学 山本 康介 助教授

四日市大学 千葉 賢 教授

ウミガメネットワーク三重 米川 弥寿代 さん

鈴鹿市漁業協同組合 漁師・黒田 樹 さん

鈴鹿高等学校自然科学部・鈴鹿中等学校科学部

魚と子どものネットワーク

白塚の浜を愛する会

三重バイオレットアイリスの選手の皆さん

第一楽器

鈴鹿高校ダンス部 NOLIMIT

地域密着型ダンスサークル peeps

三重高校ダンス部

落語家・柳泉亭くすり さん

後援 / 鈴鹿市教育委員会、鈴鹿市私立幼稚園協会、鈴鹿私立保育連盟

協力 / 鈴鹿漁業協同組合、大和リース株式会社、スズコミテナント会



さまざまななかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、  
ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの  
現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海  
を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで  
推進するプロジェクトです。 <https://uminohi.jp/>